

あかしょうぶけやしき
兵庫・明石城武家屋敷跡

- 1 所在地 兵庫県明石市東仲ノ町
- 2 調査期間 第五九次調査 一九九七年(平9) 一〇月―一九九八年三月

3 発掘機関 明石市教育委員会

4 調査担当者 船越重伸・渡辺昇

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(明石・須磨)

明石城跡は、江戸時代になって小笠原忠政(真)によって築かれた明石藩の城郭で、それに伴って城下町の建設も進められた。
今回の調査は、再開発事業に伴うもので、東仲ノ町地区第四次調査にあたる。調査地は、城下町のうち、武家屋敷の南東部分に相当する地域で、中・下級武士

の屋敷跡である。

調査の結果、江戸時代全般にわたる遺構を検出した。木簡は、江戸時代末の廃棄土坑SX一〇〇一四・SX一〇〇六四から一点ずつ、計二点出土した。いずれも多量の陶磁器類・瓦などとともに出土している。なお廃棄土坑SX一二〇〇四からは、「吉田」と墨・膠で記された土器も出土している。焼き継ぎ屋が土器を補修する際、取り違えを防ぐために、その土器の所有者を明記したものであろう。文久年間の絵図によると、調査地点に相当する位置にある屋敷の家名は「吉田」であり、これと一致することが注目される。今回出土の土器は、絵図の正当性を裏付ける資料といえよう。

8 木簡の釈文・内容

SX一〇〇一四

(1) ・「明石人丸山
大般若経永代講(焼印)
月照寺」

・「る
つ」

□□次世」

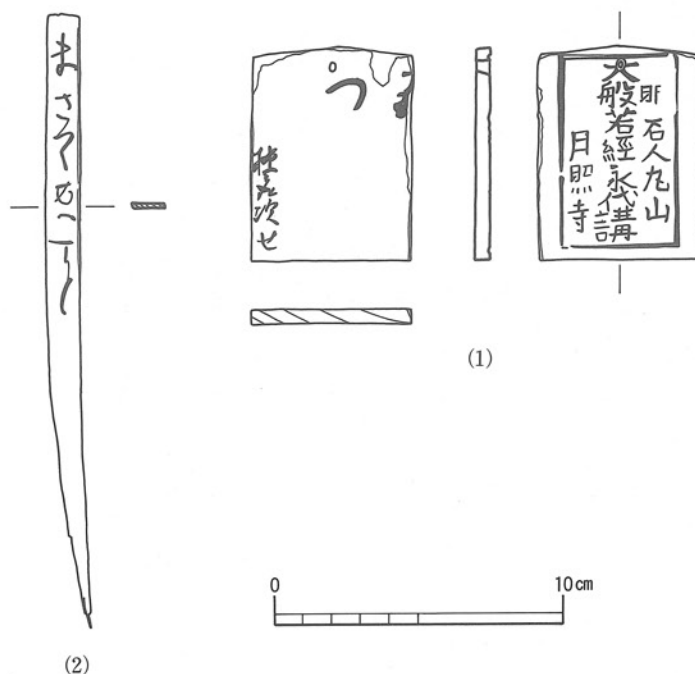
78×58×6 011

SX一〇〇六四

(2) 「まさて□□□

(217)×12×2 059

(1)は調査区の北東に所在する月照寺の木札である。大般若経永代



講のもので、表は焼印が捺され、裏面に墨書がみられる。参加者の個人名が記されているものと思われる。

(2)は細長い板に平仮名を墨書したものである。材は下部を欠く。

(渡辺 昇〈兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所〉)

木簡研究 第一八号

巻頭言

一九九五年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十五坪 平城京跡 興福寺
旧境内 大乗院庭園 藤原宮跡 藤原京跡 飛鳥京跡 長岡宮跡
長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安宮内酒殿・釜所・侍従所跡 大坂城
跡 大坂城下町跡 森の宮遺跡 長原遺跡 四天王寺旧境内遺跡
長曾根遺跡 入佐川遺跡 宮内堀脇遺跡 衾布ヶ森遺跡 香住エノ
田遺跡 神戸大学医学部附属病院構内遺跡 大毛池田遺跡 駿府城
三の丸跡 駿府城跡 御所之内遺跡 葦山反射炉 大師東丹保遺跡
甲府城関係遺跡 居村B遺跡 北条小町邸跡 宮町遺跡 南滋賀遺
跡 西河原森ノ内遺跡 屋代遺跡群 大猿田遺跡 山王遺跡 市川
橋遺跡 大日南遺跡 志羅山遺跡 西太郎丸遺跡 磯部カンダ遺跡
横江莊遺跡 加茂遺跡 豊田大塚遺跡 宮町遺跡 五社遺跡 寺町
遺跡 佐渡金山遺跡佐渡奉行所跡 桂見遺跡 岩吉遺跡 米子城跡
八遺跡 山崎一号遺跡 長登銅山跡 小倉城跡 大宰府条坊跡 呉
服町遺跡 松崎遺跡 下林遺跡Ⅳ区 昌明寺遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一八)

塩田城跡

ノヴゴロド白樺文書

長屋王家木簡三題

算木と古代実務官人

書評 沖森卓也・佐藤信著『上代木簡資料集成』

彙報

永田 英正

B・J・ヤニン

森 公章

鈴木 景二

大隅 清陽

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円